名城大学FD委員会

Meijo FD NEWS

Meijo University Faculty Development News

Vol.4
2005.5

学部FDからの出発！

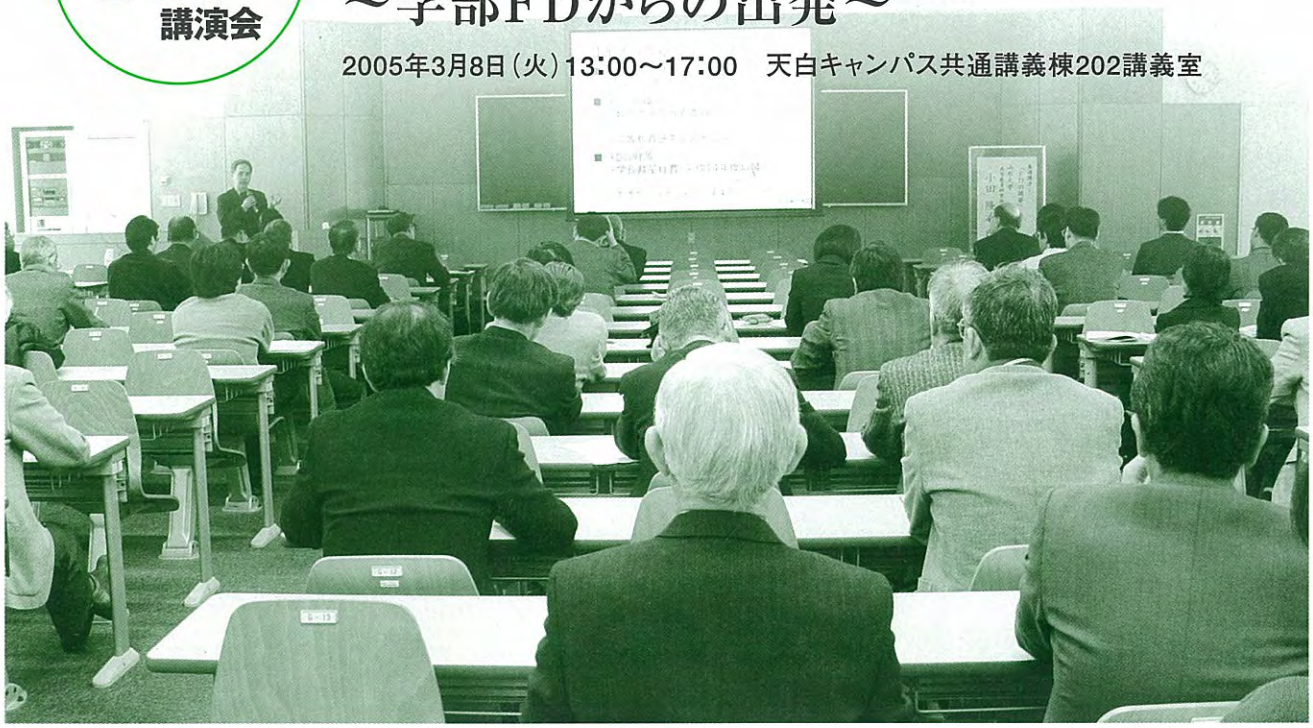
◆ 第6回学内FD講演会
「大学力を創るFD ～学部FDからの出発～」
◆ 第6回学内FD講演会　タイムテーブル
◆ FD講演会終了後のアンケートから…
◆ 内藤課長のここがポイント!
「山形大学FD活動のポイント」
◆ 時の語り部 Vol.2

第6回 学内FD講演会

大学力を創るFD

～学部FDからの出発～

2005年3月8日（火）13:00～17:00　天白キャンパス共通講義棟202講義室



名城大学で初めて、FD講演会を「ワークショップ」形式で実施しました！

今回のサブテーマ ～学部FDからの出発～ について

今回は、「学部FDからの出発」というサブテーマでFD講演会を開催しました。
今回のサブテーマにおいて、FD委員会FD講演会チームでは、
本学のFDの組織化を目指すためには、学部FDの活性化が重要なポイントになるのではないか、という検討結果になりました。
そこで、基調講演として、地域ネットワークFD「樹氷」を構築し、
その取組みが平成16年度現代的教育ニーズ取組み支援プログラムにも採択された山形大学から小田隆治教授をお迎えし、
本学からは、農学部長の新居直祐教授による講演会の開催が実現しました。

所属別参加状況

参加者数

基調講演参加者……106名
ワークショップ参加教員… 31名

	法学部	経営学部	経済学部	理工学部	農学部	薬学部	人間学部	情報センター
参加者数	1	1	7	13	22	9	5	1

タイムテーブル

▲ワークショップ

基調講演 [13:00～14:50]

○FDの開発

山形大学　高等教育研究企画センター　小田隆治 教授
「あっとおどろく授業改善ハンドブック―山形大学実践編―」編集長

○魅力ある農学部を目指して

名城大学　農学部　学部長 新居直祐 教授

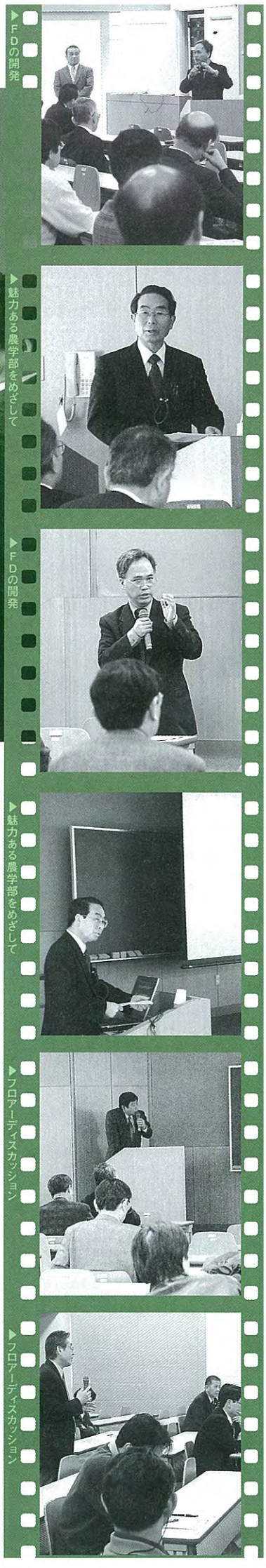
ワークショップ [15:00～16:00]　教員対象

受付時にくじを引き、ワークショップの班を決定し、
それぞれの班で下記のテーマの中から1テーマを選んで討論を進めました。

1. 学生参加型授業
2. 公開授業&検討会
3. 学生による授業評価
4. 名城大学生き残り戦略
5. 名城大学受験生倍増計画
6. 多人数講義の進め方
7. 少人数講義に関する留意事項
8. 教材の使い方
9. 評価の方法
10. 演習の進め方

▲ワークショップのグループ分け

フロアーディスカッション [16:00～17:00]



▶FDの開発
▶魅力ある農学部をめざして
▶FDの開発
▶魅力ある農学部をめざして
▶フロアーディスカッション
▶フロアーディスカッション

FD講演会終了後のアンケートから…

基調講演の感想

- 具体的な話が多く、わかりやすかった。教員同士の協同が重要であるという点をよく示されたと思う。
- 小田先生の理論は明解。実行されている点がすばらしい。特に最後の学生主体の自主授業は感動的でさえある。地域全域に広げるパワーにも感心する。
- “相互性”（学生⇔教員、教員⇔教員）について学ぶいい機会となりました。講演者の小田先生のお人柄を生かしたFDプロジェクトで、いい「教育」とは何か、いい「授業」とは何か考えるきっかけとなりそうです。実際の授業もなさっている先生によるFDの話で説得力があった。
- 小田先生のFDに対する認識と熱意が感じられた。学生中心ということが、教員だけでなく、学生に対しても職員に対しても地域に対しても関係していることを教えられました。
- やはりFD推進には情熱的、献身的先生の存在が不可欠だと思った。この講演でFDに関する新しい知見を幾つか得た。①学長裁量によるFD財源、②ハンドブックの作成、③公開授業のあり方、④教養教育が大学をつなぎとめる、⑤SDの必要性、⑥大人数教育の意義と方法等、あっと驚いた。
- 農学部の教育方針の明確な提案が必要であることが分かりました。⇒ 情報発信の必要性
- 事務職員もFD（SD）に参加し、大学の活性化の一端を担っていることの重要性がつかめた。
- 教員と学生と事務職員との一体化と、地域への拡大がとても素晴らしいと思った。
- 今日の講演内容を各学部に広報すると共に、他の学部も同様な趣旨の講演を是非。
- 学部長が責任をもって学部教育に取り組んでいる態度が分かり好感が持てた。
- 有益な講演であった。特に、三位一体で大学の活性化に取り組んでいる報告に久し振りに楽しく聴くことができた。名城大学でも参考になる話もありましたので、今日を機会に前向きに大学改革に取り組んでいきたい。

ワークショップ・フロアディスカッションについての意見・提案

- 大変よい試みだが、時間が少ない。テーマ別にグループを作った方が興味のある議論に参加できる。
- 他学部の状況・問題を知る良い機会でした。
- 参加人数が少なかったのが驚きでした。
- 小田先生の講演の中でもありましたが、学内での研修会（1日かけてのワークショップ）or学外での研修会に参加する企画として下さい。
- 他学部の先生のユニークな講義、自己評価法を知ることができ、大変有意義なものでした。

今後の学内FD講演会へのテーマや講師等の要望

- 基調講演をひとつにして、テーマを決め、ワークショップに専念する方式ではどうか。
- 学部別参加状況を公開すべき。
- 学部の教授団として機能するための方策、新任教員研修

内藤課長のここがポイント! 山形大学FD活動のポイント

山形大学FDの理念

『FDによって、健全に授業の改善や教育の改革を進めるには、
トップダウン・管理を行うことよりも、教員相互の研鑽によるものであること』

理念に基づいた質の高い活動

①授業評価アンケート
②公開授業・ワークショップ
③教養教育FD合宿セミナー
④学生主体の授業研究

山形大学はなぜ行うか?

『教育なくして大学なし』

教育がなくなれば、大学は研究所にすぎない
学生の質の転換

・魅力的な教育組織の構築と授業の独善性の排除を目指す
・教育改善をして素晴らしい大学になったら、それを社会に発信

▲山形大学 教育改善ハンドブック
「あっとおどろく授業改善ハンドブック
ー山形大学実践編ー」

山形大学のFD活動

①授業評価アンケート

個人的な営為ではなく、組織的な授業改善であること

②公開授業・検討会(ワークショップ)

公開授業は、授業者の授業参観だけでなく、参観者の授業改善にある

●公開授業とは、学生の反応を観察し、そこから授業の分析に努め
学生の行動観察と授業者の行動観察とか授業の総合分析を念頭に。

経緯

公開授業	検証	ミニ公開授業と検討会
常時公開しても、教員が参加しないのではないだろうか?	・やはり、教員の参加はなかった ・先生は忙しい ・いつ来てもよいと言われても気がひける	・身内の者、親しい者、気心の知れた者で実施 ・3〜5名の参観を学内で広めた

ミニ公開の仕方

授業を公開する教員は、あらかじめ決めた日に自分の授業を
気心の知れた学部や専門分野を問わない3〜5名の参加者を集める

検討会
(検討会は30分間)

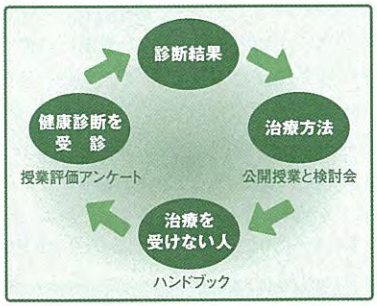
・留意点
「内容が明るいムードのあるものにしてください」
「授業者は普段通りの授業を心がけてください」
「参加者はその授業のいいところを発見し自分の授業に生かすよう
心がけてください」など

【アンケート報告書の提出の義務】

・授業者の方だけの授業改善でなく参加者の授業改善
という位置付け

授業者と参観者が記入するアンケートの内容

「この授業での学生の反応はどうでしたか」
「この授業の良かった点と改善点」
「今回の公開授業と検討会の成果を
これからの自分の授業に活かしていこうと考えていますか」



③教養教育FD合宿セミナー

8月に1泊2日で合宿セミナーを実施

プログラム

Ⅰ 『大学のニーズと課題』
Ⅱ 『山形大学をどのような大学にするか』
Ⅲ〜Ⅴ 『バーチャルな教養教育の授業を作成』
シラバス作成(1プログラム90分)

10分……説明
40分……グループ作業
(1グループ6〜7名)
20分……各グループ4分の発表
×5グループ
20分……全体協議

**この結果、山形大学では、どのように変わっていったでしょうか。
詳細は、第6回学内FD講演会の講演録を!!**

第6回　学内FD講演会を終えて

―　舞台裏　―

今回のFD講演会を企画する際、今までとは違った内容にしてはという話がFD講演会チームの委員からありました。講師の話を聴いているだけではもはやFD講演会のスタイルとしては古いと言われています。これまで我々委員は、参加数によって喜怒哀楽をしていた一面がありました。

ということで、今回の企画では、あるテーマについて参加者が議論するワークショップと各グループによるフロアーディスカッションを組み合わせることになりました。基調講演の講師ともワークショップを通して交流できることになります。

ワークショップ型の講演会は本学としてははじめてのケースでもあり、どんなテーマにするのか、テーマは複数にするのか指定にするのか、作業チームの規模はどの程度か、チームの構成は学部の垣根をなくすべきか、時間配分はどうするか、など細かい作業の検討も進められました。FD委員も企画だけではなくて、当日の議論の促進役として役割を果たすことになりました。スタイルが変われば、役どころや仕事の内容まで変化するわけで、各委員は新たな企画をすることへの心遣いを実感しました。

当然のことですが、基調講演者の人選も影響をうけます。今回の趣旨を踏まえて、教育現場の活性化に先陣をきって奮闘されている山形大学の小田隆治先生に講演を依頼することになりました。小田先生は山形地区の大学・短大のFDネットワークを構築され、文部科学省の競争的資金プログラムの現代GP（グッドプラクティス）を獲得した立役者です。新味を出した企画でしたが、当日に見積もっていた参加者数が確保できず、ワークショップとしては少しさびしい雰囲気と感じましたが、参加していただいた先生方には楽しんでいただけたように思いました。

裏方の苦労話ですが、先生方の参加者が期待とは裏腹な結果となり、農学部長の新居先生の講演の最中、慌ててワークショップのチームの組みなおしをしました。こういう緊急の作業をわれわれは内職と呼んでいますが、次回はしないで済むようにしたいものです。

大学教育開発センター　内藤 孝行

名城大学FD委員会広報誌 ― Vol.4

Meijo FD NEWS

発 行 日　平成17年5月30日
発 行 者　名城大学 大学教育開発センター
〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501　TEL.(052)838-2033（ダイヤルイン）
ホームページ http://www.meijo-u.ac.jp/　Eメール edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp
編集協力　（株）進研アド　中部支社

この印刷物は、古紙配合率100%再生紙と環境にやさしい植物性大豆インキを使用しております。